

## 5. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【平成29年度第2四半期】

### <概要>

#### 1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間10回程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案

#### 【平成29年度第2四半期】全4件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案8 [p. 4-5]	「放射性物質の移動の計測と予測－あの日・いま・これからの安心・安全」	平成29年 8月7日(月)	日本学術 会議講堂	要	要
2	提案9 [p. 6]	「提言「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方について」の推進について」(仮題)	平成29年 8月25日(金)	日本学術 会議講堂	要	要
3	提案10 [p. 7-8]	「アジアの経済発展と立地・環境－都市・農村関係の再構築を考える」(仮題)	平成29年 7月8日(土)	日本学術 会議講堂	要	要
4	提案11 [p. 9-10]	「Future Earthの推進と学校教育」(仮題)	平成29年 9月3日(日)	日本学術 会議講堂	要	要

※(2)要件の上限を超えているが、前回第1四半期は1件のみであったため、今回は4件を承認することとする。

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

(1) 各年度 32 回まで、及び四半期ごとにおおむね 8 回

(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案

【平成 29 年度第 2 四半期】全 4 件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	主催委員会等名
1	提案 1 2 [p. 11-12]	公開シンポジウム「市民性涵養のための法学教育（仮）」	平成 29 年 7 月 22 日（土）	法学委員会「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会
2	提案 1 3 [p. 13-14]	公開シンポジウム「法科大学院時代の法曹養成・法学研究者養成の課題と展望（仮）」	平成 29 年 7 月 29 日 （土）	法学委員会、同「学術と法」分科会
3	提案 1 4 [p. 15-16]	公開シンポジウム「生態系インフラストラクチャーを社会実装する」	平成 29 年 7 月 17 日 （月・祝日）	環境学委員会自然環境保全再生分科会
4	提案 1 5 [p. 17-18]	公開シンポジウム「災害軽減と持続的社会の形成に向けた科学と社会の協働・協創」	平成 29 年 9 月 17 日（日）	地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会

【平成 29 年度第 1 四半期※追加分】全 1 件

1	提案 1 6 [p. 19-20]	公開シンポジウム「ヒト受精卵や配偶子のゲノム編集を考える」	平成 29 年 4 月 30 日（日）	医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会
---	----------------------	-------------------------------	------------------------	-----------------------------

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム (平日 3 件/土日 2 件) 全 5 件  
(内訳)

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォーラム	(土日)	-	2	(残り 5 件)	
	(平日)	1	2		
合計		1	4		

※現在の 5 件につき、すべて経費及び人的負担要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 (学術フォーラム含む) 全 10 件  
(内訳)

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
シンポジウム	第一部	-	2	(残り 22 件)	
	第二部	1	-		
	第三部	2	2		
	若手アカ デミー	-	-		
	課題別	1※	-		
学術フォーラム (土日)		-	2		
合計		4	6		

※今回追加分 (ゲノム)

■承認済み案件一覧

1. 学術フォーラム

	テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	「危機に瀕する学術情報の現状 とその将来」(仮題)	平成 29 年 5 月 18 日(木)	日本学術会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

	テーマ	開催日時	主催委員会等	
1	「睡眠と生物時計：心身の健康 を守るからだのリズム」	平成 29 年 5 月 28 日(日)	基礎生物学委員会・基礎医学 委員会・臨床医学委員会合同 生物リズム分科会	第二部
2	「材料工学から見たものづくり 人材育成の課題と展望」	平成 29 年 4 月 22 日(土)	材料工学委員会材料工学将来 展開分科会	第三部
3	公開ワークショップ「まちおこ しの現場から明日を考える -若 手・中堅研究者の提言-	平成 29 年 5 月 13 日(土)	土木工学・建築学委員会地方 創生のための国土・まちづく り分科会	第三部

## &lt;各提案&gt;

日本学術会議主催学術フォーラム「放射性物質の移動の計測と予測—  
あのと時・いま・これからの安心・安全」の開催について

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：平成 29 年 8 月 7 日（月）

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 委員会の開催：開催しない

5. 開催趣旨：

原発事故時の住民防護を考える上で、放射性物質の移流・拡散の計測（モニタリング）と予測は極めて重要な要素である。本フォーラムでは、福島第一原子力発電所事故時の緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム（SPEEDI）等の予測手法の問題点の検証と、現在の技術的到達レベルについて、これまでの地球惑星科学委員会における審議の成果を公表するとともに、その成果に基づいて対策を社会実装するときに忘れてはならないものは何かについての検証と分析を行う。それらを通じて得られた共通認識を踏まえて行うパネル討論では、真に住民の安全確保に貢献しうるモニタリングと予測があるとすれば、それらが備えるべき要件は何かを審らかにする。

6. 次 第：

総合司会 高橋 桂子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構地球情報基盤センターセンター長）

12:00-12:05 開会挨拶

大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）（調整中）

12:05-12:15 地球惑星科学委員会の審議内容と本フォーラムの趣旨説明

大久保修平（日本学術会議第三部会員、東京大学地震研究所教授、高エネルギー素粒子地球物理学研究センター長）

第 1 部 原発事故時の放射性物質のモニタリングと移動の数値予測の現状と課題

司会 高橋 桂子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構地球情報基盤センターセンター長）

12:15-12:35 福島第一原発事故による放射性物質の移動の実態

恩田 裕一（筑波大学生命環境系教授）

12:35-12:55 福島第一原発事故時の放射性物質移流拡散問題

—日本気象学会の事故後の活動と数値予報モデルの活用策について—

岩崎 俊樹（東北大学大学院理学研究科教授、日本気象学会理事長）

12:55-13:15 大気化学輸送の観点からの物質輸送モデリングの現状と課題

中島 映至（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構第一宇宙技術部門地球観測研究センターセンター長）

13:15-13:35 モニタリングと大気拡散計算による原子力事故影響の把握とその事故対応への反映

山澤 弘実 (名古屋大学大学院工学研究科教授)

13:35-13:50 (休憩)

第2部 放射性物質のモニタリング・予測情報をどう活かすべきか？

司会 中村 尚 (日本学術会議第三部会員、東京大学先端科学技術研究センター副所長・教授)

13:50-14:10 原子力リスクの評価と原子力防災のあり方

山口 彰 (東京大学大学院工学系研究科教授)

14:10-14:30 マルチエージェント社会シミュレーションが浮き彫りにする緊急時避難の課題

野田五十樹 (産業技術総合研究所総括研究主幹)

14:30-14:50 緊急時のモニタリング・予測情報とマスコミの役割

小出 重幸 (日本科学技術ジャーナリスト会議会長)

14:50-15:10 モニタリング・ポストの現状と現場自治体の対応

岩永 幹夫 (公益財団法人若狭湾エネルギー研究センター常務理事)

15:10-15:30 (休憩)

第3部 総合討論及びパネルディスカッション

15:30-16:00 総合討論 (参加者と講演者8名による質疑応答)

司会：高橋 桂子 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構地球情報基盤センターセンター長)

16:00-16:55 パネルディスカッション：国民の安心・安全を守るために放射性物質のモニタリング及び移流・拡散予測に求められる要件とは？

司会：大久保修平 (日本学術会議第三部会員、東京大学地震研究所教授、高エネルギー素粒子地球物理学研究センター長)

中村 尚 (日本学術会議第三部会員、東京大学先端科学技術研究センター副所長・教授)

パネリスト：大西 隆 (日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授) (調整中)

他、講演者8名

16:55-17:00 閉会の挨拶

藤井 良一 (日本学術会議第三部会員、大学共同利用法人情報・システム研究機構理事)

(下線の登壇者は、提案委員会委員)

日本学術会議主催学術フォーラム「提言「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方について」の推進について」（仮題）の開催について

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：平成 29 年 8 月 25 日（金）

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 委員会の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

日本学術会議では、提言「学術振興の観点から学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方について」をとりまとめ、本年 5 月～6 月頃に公表する予定となっている。本提言に基づき我が国の大学が地域や関係機関と連携・協力を図りつつ、如何なる方策をとるべきかについて、身近な問題である国民の声も聴きながら、大学（国立、公立、私立）、政治・行政、経済界、メディアを代表する有識者による問題提起と討論によって探る。

6. 次 第：

13:00～17:00

① 開会挨拶

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

② 趣旨説明

福田 裕穂（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科長・理学部長・教授）

③ 国立大学関係者 講演

安浦 寛人（日本学術会議第三部会員、九州大学理事・副学長）  
他、一般社団法人国立大学協会関係者（調整中）

④ 公立大学関係者 講演（調整中）

⑤ 私立大学関係者 講演（調整中）

⑥ 関係行政機関 講演（調整中）

⑦ 経済団体 講演（調整中）

⑧ メディア関係者 講演（調整中）

⑨ 質疑応答

\*その他、総合司会、講演者、パネルディスカッションのコーディネーター・パネラー、閉会挨拶者についても調整中。

（下線の登壇者は、提案委員会委員）

日本学術会議主催学術フォーラム「アジアの経済発展と立地・環境—  
都市・農村関係の再構築を考える」（仮題）の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 後 援：World Social Science Forum (WSSF) 第4回世界大会（福岡開催）組織委員会、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所（予定）
3. 日 時：平成29年7月8日（土）
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

2017年4月20-22日に北京で開催される AASSREC (Asian Association of Social Science Research Councils) 第22回大会のテーマが、Sustaining a Green and Equitable Future in the Asia-Pacific と決まった。本大会の趣旨には「経済成長と貧困の撲滅という課題を有限な天然資源に悪影響を及ぼすことなく達成できるか」という問題が設定されており、高齢社会を比較した第20回大会、メガシティを論じた第21回大会の議論を踏まえ、各国の代表が、新しいアプローチや、それぞれの具体的課題やその解決方法について報告することが求められている。日本における AASSREC の窓口である日本学術会議第一部国際協力分科会は、フューチャー・アースにおける「日本の優先課題」の一つとして抽出された「都市・農村関係」を取り上げ、アジア、日本の環境経済史、ネクサス論、フューチャー・デザイン研究を国際的にリードしている研究者を招いて、文理融合と長期の歴史的視点を盛り込んだカントリー・ペーパーをまとめる準備を進めており、4月15日にワークショップを行う予定である。北京での会議の議論も踏まえ、アジアでどのような研究や課題解決への取り組みが行われているかを共有し、一般参加者との意見交換等を通じて日本における方向性を探るために学術フォーラムを開催する。

7. 次 第：

総合司会：山本 眞鳥（日本学術会議連携会員、法政大学経済学部教授、放送大学客員教授）

13:30-13:35 開会挨拶

山本 眞鳥（日本学術会議連携会員、法政大学経済学部教授、放送大学客員教授）

13:35-13:45 問題提起

中野 聡（日本学術会議連携会員、一橋大学大学院社会学研究科教授）

13:45-14:20 開発主義の環境的基盤—臨海工業地帯から内陸部への歴史的移動を考える

杉原 薫（日本学術会議第一部会員、総合地球環境学研究所特任教授）

14:20-14:55 臨海工業地帯と日本の軌跡—臨海開発・公害対策・自然保護

小堀 聡（名古屋大学経済学部准教授）

14:55-15:30 アジアにおけるエネルギー・水・食料の総合的確保—ネクサス研究の新展開

- 谷口 真人 (日本学術会議特任連携会員、総合地球環境学研究所副所長・教授)
- 15:30-16:05 都市と農村をつなぐ生活圏の再構築 (仮)
- 西條 辰義 (日本学術会議第一部会員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授)
- 16:05-16:20 (休憩)
- 16:20-17:25 パネル・ディスカッション
- 司会：中野 聡 (日本学術会議連携会員、一橋大学大学院社会学研究科教授)
- パネリスト：杉原 薫 (日本学術会議第一部会員、総合地球環境学研究所特任教授)  
小堀 聡 (名古屋大学経済学部准教授)
- 谷口 真人 (日本学術会議特任連携会員、総合地球環境学研究所副所長・教授)
- 西條 辰義 (日本学術会議第一部会員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授)
- 町村 敬志 (日本学術会議第一部会員、一橋大学大学院社会学研究科教授)
- 森 宏一郎 (滋賀大学国際センター教授)
- 17:25-17:30 閉会挨拶
- 広渡 清吾 (日本学術会議連携会員、専修大学法学部教授)

(下線の登壇者は、提案分科会委員)

日本学術会議主催学術フォーラム「Future Earth の推進と学校教育」(仮題)  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：平成 29 年 9 月 3 日 (日)
3. 場 所：日本学術会議講堂
4. 分科会の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

Future Earth は持続可能な社会の実現に向けた研究活動等のプラットフォームとしての体制を築きつつあるが、そこでは科学と社会の協働による Co-design、Co-production の推進が強く求められている。なかでも科学と学校教育との協働の推進は、未来を担う若者の育成・成長に直結する喫緊の課題である。フューチャー・アースの推進に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会は、その課題にどう取り組んだらよいかを中学・高校生や大学生を含む広範な人々と共に議論するため、今年 1 月に公開ワークショップ「Future Earth と学校教育：Co-design/Co-production をどう実践するか」を実施し、5 月にはその第 2 回目を実施する予定である。本学術フォーラムはこの一連の取り組みの総まとめの場として開催するものである。分科会委員、学校の教員らから学校で取り組むべき地球環境問題の事例及び学校における地球環境問題への取り組みの実践例、成果、課題等について具体的な報告を受け、それらを基に、参加者全員で、Future Earth に関わる学校教育の課題、科学と学校教育とのつながりの強化及びそれと関連する問題の克服などについて考えたい。

6. 次 第：

総合司会：宮寺 晃夫 (日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授)

13:00～13:10 開会挨拶、趣旨説明

氷見山幸夫 (日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授)

13:10～13:30 報告 1 海洋教育

日置 光久 (日本学術会議特任連携会員、東京大学海洋教育促進研究センター  
特任教授)

13:30～13:50 報告 2 持続性教育

武内 和彦 (日本学術会議第二部会員、東京大学国際高等研究所サステイナビリティ  
学連携研究機構機構長・教授)

13:50～14:10 報告 3 温暖化教育

安成 哲三 (日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所所長)

14:10～14:30 報告 4 実践例

木村 浩明 (逗子開成中学校・高等学校教諭)

14:30～14:50 報告 5 実践例

小澤 栄美 (東京都立科学技術高等学校教諭) (調整中)

14:50～15:00 (休憩)

15:00～15:20 報告6 実践例

井上 貴司 (山陽女子中学校・高等学校教諭)

15:20～16:50 ディスカッション

(参加者と趣旨説明者及び講演者全員による質疑応答)

司会：山口 しのぶ (日本学術会議連携会員、東京工業大学学術国際情報センター教授)

16:50～17:00 閉会挨拶

花木 啓祐 (日本学術会議副会長・第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授)  
(調整中)

(下線の登壇者は、提案分科会委員)

## 公開シンポジウム「市民性涵養のための法学教育（仮）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会
2. 共 催：(調整中)
3. 後 援：(調整中)
4. 日 時：平成29年7月22日(土) 13時00分～17時45分
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：日本学術会議は、この数年来、分野別質保証のための参照基準を作成・公表してきた。法学分野の参照基準は、2012年に公表されている。これらの参照基準では、いずれも「市民性の涵養」が課題の一つに挙げられている。とくに法学の参照基準では、「法学はわれわれの市民生活における規範を対象とすることから、その学修では何よりも市民性の涵養が基本となる」とされている。他方、18歳選挙権が実現し、2022年度から高校では新科目「公共」が必修化される見込みとなった。「公共」では、高校生の社会参加を促すためのアクティブ・ラーニングの積極的導入や高大連携がはかられ、教育目標の一つには、市民生活に必要な法的知識を身につけて討論する力を育むことが挙げられている。このような動向を踏まえると、法学教育は「法学部専門教育・法曹養成教育」としてだけではなく、広く「市民性」を涵養するための「高校・大学全学共通教育・法学部以外の専門教育・生涯教育」のすべてにわたる教育システムとして体系的に構築される必要がある。本シンポジウムは、そのための第1段階として、高校新科目「公共」と大学全学共通教育（「法学」など）を中心に法学教育の可能性と課題を検討したい。
8. 次 第：(タイトルはいずれも仮題)
- 13:00～13:05 開会挨拶  
二宮 周平 (日本学術会議連携会員、立命館大学法学部教授)
- 13:05～13:20 趣旨説明——市民性涵養と法学教育の課題  
三成 美保 (日本学術会議第一部会員、奈良女子大学副学長)
- 13:20～13:45 報告1 新科目「公共」と法学教育  
ゲスト(高校教員)(調整中)
- 13:45～14:10 報告2 ドイツの中等教育における法学教育  
松本 尚子 (日本学術会議連携会員、上智大学法学部教授)
- 14:10～14:25 コメント1 新科目「公共」に盛り込むべき労働法テーマ  
浅倉 むつ子 (日本学術会議連携会員、早稲田大学大学院法務研究科教授)
- 14:25～14:40 コメント2 新科目「公共」と弁護士の参加  
ゲスト(弁護士)(調整中)
- 14:40～14:50 休憩

- 14：50～15：15 報告3 新しい教養教育における市民性涵養の課題——理系教育に  
よっての法学教育  
小林 傳司（日本学術会議連携会員、大阪大学理事・副学長）
- 15：15～15：40 報告4 全学共通教育アクティブ・ラーニングとしての法学教育——  
東北大学の実践から  
糠塚 康江（日本学術会議第一部会員、東北大学大学院法学研究科教授）
- 15：40～16：15 報告5 市民性涵養のための基礎法学教育の可能性  
三成 賢次（日本学術会議連携会員、大阪大学理事・副学長）
- 16：05～16：20 コメント3 市民性涵養のためのジェンダー法学教育  
南野 佳代（日本学術会議連携会員、京都女子大学法学部教授）
- 16：20～16：35 コメント4 医療者養成教育と市民性涵養のための法学教育  
小澤 隆一（日本学術会議連会会員、慈恵医科大学教授）
- 16：35～16：40 休憩
- 16：40～17：40 総合討論  
司会：小森田秋夫（日本学術会議連携会員、神奈川大学法学部教授）  
武田万里子（日本学術会議連携会員、津田塾大学学芸学部教授）
- 17：40～17：45 閉会挨拶  
稲 正樹（日本学術会議連携会員、国際基督教大学前教授）
- 総合司会：榎澤 能生（日本学術会議連携会員、早稲田大学法学学術院長）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「法科大学院時代の法曹養成・法学研究者養成の課題と展望（仮）」  
の開催について

2. 主 催：日本学術会議法学委員会、同「学術と法」分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成29年7月29日（土）13時00分～17時00分

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：あり

7. 開催趣旨：2001年の司法制度改革審議会意見書の提言を受け、2004年に、質量ともに優れた法曹の養成をめざす新たな制度として法科大学院制度が発足した。それから10年あまりが経ち、同制度を通じて多くの法曹が輩出される一方、法科大学院志願者・入学者数の減少、地方の法科大学院の撤退、司法試験合格重視の傾向と法科大学院制度発足当初の理念の後退、弁護士界の一部からは「法曹の質の低下」などの課題が指摘されている。また、法科大学院制度の下で法学研究者養成に種々の困難が生じていることも指摘される。

2015年7月の政府の法曹養成制度改革推進会議の決定『法曹養成制度改革の更なる推進について』は、2018年度までを法科大学院の集中改革期間として位置づけ、現在、各種の政府の施策および各法科大学院の改革の取り組みが進められている。しかし、現在進行中のこの改革は、将来に向けて質量ともに優れた法曹を安定的に社会に供給する上で果たして実効的なものとなっているであろうか。あるいは、現在の制度および政策の枠組みが、よりよい改革の方向を妨げる桎梏となっている面はないであろうか。また、法科大学院制度の下での法学研究者養成の実態ははたしてどのようなものであるのか。これらの点を明らかにするため、日本学術会議の法学委員会および同「学術と法」分科会では、2017年1月から2月にかけて、全国の法学研究科・法科大学院を対象とするアンケート調査を実施した。その結果、60を超える多くの法学研究科・法科大学院の協力を得て、貴重な情報と意見を収集することができた。

本シンポジウムは、このアンケート調査の結果を紹介するとともに、多方面の関係者・関係団体の報告・コメント、パネル・ディスカッションを通じて、法科大学院制度と法曹養成、法学研究者養成をめぐる現在の課題および今後の展望を明らかにすることをめざすものである。日本学術会議ならではの学術的・俯瞰的視点からの企画であり、今後の法科大学院制度と法曹養成、法学研究者養成のあり方を考える上で重要な示唆が得られるものと期待される。

8. 次 第：

司会：（調整中）

- 13:00 開会挨拶  
松本恒雄（日本学術会議第一部会員、独立行政法人国民生活センター理事長）
- 13:10 I 法曹養成・法学研究者養成アンケートの結果の紹介  
佐藤岩夫（日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授）
- II アンケート結果をどう読む：法曹養成・法学研究者養成の現状と課題
- 13:40 報告（⑥を除き暫定）
- ①法科大学院の立場から（法科大学院協会）（調整中）
- 13:55 ②法曹団体の立場から（日本弁護士連合会）（調整中）
- 14:10 ③法曹養成教育の視点から（臨床法学教育学会）（調整中）
- 14:25 ④地方の視点から（地方の法科大学院関係者）（調整中）
- 14:40 ⑤ジェンダーの視点から（連携会員または弁護士）（調整中）
- 14:55 ⑥法科大学院時代の法学研究者養成  
糠塚康江（日本学術会議第一部会員、東北大学大学院法学研究科教授）
- 15:10（ 休憩 ）
- 15:30 III パネル・ディスカッション：法曹養成・法学研究者養成のこれからを考える
- 16:55 閉会挨拶  
後藤弘子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院専門法務研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線は、主催分科会等委員）

公開シンポジウム「生態系インフラストラクチャーを社会実装する」  
の開催について

1. 主 催：環境学委員会自然環境保全再生分科会

2. 共 催：「ハビタットロスの過程に着目した生態系減災機能評価と包括的便益評価手法の開発」研究グループ、「人口減少、気候変動下におけるグリーンインフラ - 生物多様性・防災・社会的価値評価」研究グループ、総合地球環境学研究所「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）の評価と社会実装」研究グループ、グリーンインフラ研究会

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 29 年 7 月 17 日（月）13:30～17:00

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

自然環境保全再生分科会におけるこれまでの審議結果をとりまとめた提言「復興・国土強靱化における生態系インフラストラクチャー活用のすすめ」が、平成26年9月に公表された。そこでは、自然生態系・半自然生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）の重要性が指摘され、Eco-DRRの社会実装に向けた研究開発、地域の多様な主体との情報共有と合意形成、Eco-DRRを考慮した環境教育の必要性などが提言されている。当分科会では本提言を実現すべく諸々の活動を進めており、2月8日に公開された提言「第23期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2017）」には、当分科会の提案である「生態系インフラストラクチャーによる持続可能社会の構築」が選定されている。生態系インフラストラクチャーの重要性を一般社会に広く発信し、その社会への実装を実現するために、提言公表後に進められてきた研究開発における成果と課題を検討することを目的として、公開シンポジウムを開催したい。人口減少時代を迎えた日本にとって安全・安心な国民の生活と自然環境を守る強力な方策となる生態系インフラストラクチャーの考え方を広く伝えるために日本学術会議大講堂での開催を希望している。また、一般の参加者の発表と交流をも目的として、ポスターセッションも開催する予定である。

8. 次 第：

13:30～ 主催者挨拶・開催趣旨

鷺谷いづみ\*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

13:40～ 共催者挨拶

一ノ瀬友博\*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学環境情報学部教授）

中村太士（北海道大学大学院農学研究科教授）

吉田丈人\*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科准教授）

14:00～ 講演

「生態系インフラストラクチャーの計画的展開」 (仮題)

一ノ瀬友博\* (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学環境情報学部教授)

「生態系インフラストラクチャーの経済的評価」 (仮題)

大沼あゆみ\* (日本学術会議特任連携会員、慶應義塾大学経済学部教授)

「生態系インフラストラクチャーを支える多様な主体の連携」 (仮題)

鎌田磨人 (徳島大学大学院理工学研究部教授)

15:00～ ポスターセッション

研究成果や実践活動の紹介など

15:55～ パネルディスカッション「テーマ：社会実装の壁は何か」 (仮題) 60分

コーディネーター：中村太士 (北海道大学大学院農学研究科教授)

パネリスト：

一ノ瀬友博\* (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学環境情報学部教授)

大沼あゆみ\* (日本学術会議特任連携会員、慶應義塾大学経済学部教授)

鎌田磨人 (徳島大学大学院理工学研究部教授)

吉田丈人\* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科准教授)

西廣淳 (東邦大学理学部 准教授)

西田貴明 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 経営企画部 副主任研究員)

16:55 閉会挨拶

鷺谷いづみ\* (日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(\*印の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「災害軽減と持続的社会的形成に向けた科学と社会の協働・協創」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本地球惑星科学連合、地理学連携機構
4. 日 時：平成 29 年 9 月 17 日（日）13：00～17：15
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

大規模な災害が頻発し、また資源小国でグローバルな社会や環境の変化を受けやすい我が国では、多くの科学者が災害の軽減と持続的社会的形成に向けた研究に携わっている。しかし良い研究をすればそれが即社会に貢献し、評価されるというわけではない。科学と社会の間の意思疎通に問題があることもあれば、社会が当面の社会経済問題に忙殺されていることもある。本シンポジウムは、そのような現実を踏まえつつ災害軽減と持続的社会的形成に向かって進むには、両者に同時的・統一的に取り組む必要があること、更に科学と社会とが協働・協創を基本として取り組むべきであることを再確認し、その推進の方策を考える。具体的には、地球環境問題、水問題、土壌問題、気象・気候災害、地震・火山災害、津波災害などに関する教育・研究体制等の、社会の安全安心や持続可能性に係る主要なテーマについて、現状と問題点、それに対する協働・協創の取り組みなどを、具体的事例を用いて紹介し、最後に総合討論の時間を設け、フロアとの間で相互理解と議論の深化を図る。科学と社会の協働・協創の「場」と呼ぶに相応しいシンポジウムにしたいと考えている。

8. 次 第：

- 総合司会 小口 高（日本学術会議連携会員、東京大学空間情報科学研究センター長・教授）
- 13：00 開会挨拶、趣旨説明  
氷見山 幸夫（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授）
- 13：05 講演「地球環境問題」  
安成 哲三（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所所長）
- 13：25 講演「水問題」  
沖 大幹（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）
- 13：45 講演「土壌問題」  
宮崎 毅（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）
- 14：05 講演「気象・気候災害」  
鬼頭 昭雄（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系主幹研究員）

- 14：25 講演「地域情報整備」  
佃 榮吉（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所理事）
- 14：45－15：00 （ 休憩 ）
- 15：00 講演「地震・火山災害」  
中田 節也（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）
- 15：20 講演「地質災害」  
海津 正倫（日本学術会議連携会員、奈良大学文学部教授）
- 15：40 講演「津波災害」  
佐竹 健治（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）
- 16：00 講演「災害・防災」  
寶 馨（日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所教授）
- 16：20 講演「土木・建築」  
和田 章（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
- 16：40 ディスカッション  
（司会）春山 成子（日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究所教授）
- 17：25 閉会挨拶  
高橋 桂子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構地球情報基盤センター長）
- 17：30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

## 6. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【平成 29 年度第 1 四半期】※追加分

<概要>…p.2 参照

<各提案>

提案 16

公開シンポジウム「ヒト受精卵や配偶子のゲノム編集を考える」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会
2. 後 援：日本遺伝子細胞治療学会、日本産科婦人科学会、日本生殖医学会、日本分子生物学会、日本生化学会、日本生命倫理学会等の関連学会（すべて予定）
3. 日 時：平成 29 年 4 月 30 日（日） 13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂（予定）
5. 委員会の開催：開催予定

### 6. 開催趣旨：

医学・医療分野において、先端遺伝子改変技術、ゲノム編集の利用が進んでいる。現在、ゲノム編集を用いた生殖医療応用の実施は倫理的観点から安易に容認できないとする見解がある一方で、さまざまな目的でゲノム編集を使うヒト胚や配偶子などの生殖細胞系列の基礎研究が想定しうる。中国からヒト受精卵ゲノム編集の基礎研究が論文報告された際、世界的な懸念を起したことをふまえると、日本でも生物医学的、倫理的、社会的、法的観点で慎重に検討しなければならない。その一環として、一般の人々と対話の場をもち、ヒト生殖細胞系列におけるゲノム編集研究の在り方を深く考える。

### 7. 次 第：

13：00 開会あいさつ

五十嵐 隆（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立成育医療研究センター理事長）

13：15～15：00 背景情報、論点の提供（1人10分、質疑5分）

13：15－13：30

日本の生殖医療の現状とゲノム編集研究（検討委員会委員）（調整中）

13：30－13：45

ヒト生殖細胞系列ゲノム編集の基礎研究

阿久津 英憲（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所再生医療センター生殖医療研究部部長）

13：45－14：00

ヒト生殖細胞系列ゲノム編集の倫理社会的論点

石井 哲也（日本学術会議連携会員、北海道大学安全衛生本部ライフサイエンス系研究安全担当教授）

14:00-14:15

宗教からヒトゲノム編集を考える

島菌 進 (日本学術会議連携会員、上智大学大学院実践宗教学研究科教授)

14:15-14:30

日本におけるヒトゲノム編集や配偶子の研究規制

町野 朔 (日本学術会議連携会員、上智大学生命倫理研究所客員教授)

14:30-14:45

ヒトゲノム編集と科学技術行政

原山 優子 (総合科学技術・イノベーション会議議員)

14:45-15:00

ヒトゲノム編集を巡る世論

永山 悦子 (毎日新聞医療福祉部副部長)

15:00~15:15 休憩

コーディネーター (マスコミ関係者) (調整中)

15:00~15:30 ヒト生殖細胞系列ゲノム編集について模擬討論

登壇者:

阿久津 英憲 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立成育医療研究センター  
研究所再生医療センター生殖医療研究部部長)

石井 哲也 (日本学術会議連携会員、北海道大学安全衛生本部ライフサイエンス系研究  
安全担当教授)

有江 文栄 (日本学術会議事務局上席学術調査員)

中山 早苗 (日本学術会議事務局上席学術調査員)

15:30~16:30 質疑応答

16:30~16:40 閉会のあいさつ

石川 冬木 (日本学術会議第二部会員、京都大学大学院生命科学研究科教授)

(下線の講演者は、主催委員会委員)

## 7. 5及び6以外のシンポジウム等

提案 17

### 公開シンポジウム「次世代統合バイオイメーキング研究の展望」 の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物物理学分科会、  
基礎生物学委員会合同 IUPAB 分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員  
会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオイ  
ンフォマティクス分科会
2. 共 催：国立研究開発法人国立環境研究所、大学共同利用機関法人自然科学研究機構  
国立天文台、国立研究開発法人情報通信研究機構（すべて予定）
3. 日 時：平成29年8月29日（火）13：00～18：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：近年のバイオイメーキング技術の進展により、細胞や個体の時空間動態情  
報をはじめとする様々な生命システムに関する膨大な情報を取得することが可能にな  
ってきた。一方、ライフサイエンス以外に目を向けると、様々な計測技術が開発され、  
異なる時空間階層に関するビッグデータ取得に利用されている。これらの技術は一見  
すると生命システム研究に直接応用ができないように見受けられるものの、その原理  
やデータ解析手法を生命システム研究に生かさない手はない。本公開シンポジウムで  
は、先端的バイオイメーキング計測分野の研究者に加え、物理学、情報科学、生態学、  
地球科学、宇宙科学などの幅広い分野の研究者を一堂に会し、我が国における超広域研  
究交流プラットフォームを形成するとともに、より広い見地から改めてバイオイメー  
キング研究の方法論を見つめなおし、「何を観ることが生命科学においてパラダイムシ  
フトに繋がるか？」を議論する。

#### 7. 次 第 （予定）：

コーディネーター

永井健治（日本学術会議連携会員、大阪大学産業科学研究所教授）

野地博行（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学研究科応用科学専攻教授）

有田正規（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立  
遺伝学研究所教授）

13：00-13：10 開会の挨拶

永井健治（日本学術会議連携会員、大阪大学産業科学研究所教授）

13：10-15：10 講 演

（登壇者予定）

新倉弘倫（早稲田大学理工学術院先進理工学部教授）

「アト秒軟X線レーザーを利用した分子軌道イメージング（仮題）」

堀川一樹（徳島大学大学院医歯薬学研究部教授）

「1分子から個体レベルまでの多階層バイオイメージング（仮題）」

八木康史（大阪大学理事・副学長）

「人間社会リモートイメージング（仮題）」

15：10-15：20 休憩

15：20-16：40 講演

（登壇者予定）

大政謙次（日本学術会議会員、東京大学名誉教授、愛媛大学大学院農学研究科客員教授、高知工科大学客員教授）

「地球環境イメージング（仮題）」

高見英樹（国立天文台先端技術センター教授）

「TMTによる超解像天体イメージング（仮題）」

16：40-16：50 休憩

16：50-17：50 総合討論

「次世代統合バイオイメージング研究が解くべき課題」に関する総合討論

永井健治（日本学術会議連携会員、大阪大学産業科学研究所教授）

野地博行（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学研究科応用科学専攻教授）

有田正規（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授）

新倉弘倫（早稲田大学理工学術院先進理工学部教授）

堀川一樹（徳島大学大学院医歯薬学研究部教授）

八木康史（大阪大学理事・副学長）

大政謙次（日本学術会議会員、東京大学名誉教授、愛媛大学大学院農学研究科客員教授、高知工科大学客員教授）

高見英樹（国立天文台先端技術センター教授）

17：50-18：00 閉会挨拶

有田正規（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

## 公開シンポジウム「大学農場が牽引する新しい地域連携」の開催について

1. 主催：日本学術会議農学委員会、農学委員会農学分科会、全国大学附属農場協議会
2. 日時：平成 29 年 5 月 12 日（金） 13:15～17:00
3. 場所：日本学術会議講堂
4. 委員会等の開催：開催予定

## 5. 開催趣旨：

農学は人類の生活の糧を担う学問であり、大学附属農場は大学における農学教育にとってきわめて重要な役割を果たしてきた。現代の農学では、食料生産だけでなく、食品加工や流通、生命・ゲノム、環境、水資源・再生可能エネルギーなどを教育研究対象とするため、グローバルな視点と地域の特性に対応した実践力が必要となる。実践の科学である農学の教育には、教室や実験室だけでは不十分であり、大学内の農業生産現場である附属農場における総合的で実践的な教育が不可欠である。しかしながら、先端科学に舵を切った農学の煽りを受けて、人的あるいは予算的に縮小傾向となる大学附属農場も多く、農学教育の将来が危惧される現状となっている。その一方で、大学と大学附属農場が積極的な改革を行い、より実践的な農学教育の実践や地域との連携を牽引する新しい動きも活発化している。

このような状況を踏まえ、農学教育の現状と大学附属農場等の果たすべき新しい役割を議論し、将来展望を図ることが、本シンポジウムの趣旨である。

## 6. 次第：

総合司会：玉置雅彦（明治大学大学院農学研究科教授、全国大学附属農場協議会副会長）

## I. 開会挨拶（13:15）

大杉 立（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授）

## II. 基調講演（13:20～15:05）

## 1) 地方創成における大学農場の役割

阿部とし子（衆議院議員、元農林水産副大臣）

## 2) 地域連携の推進に果たす農学部・附属農場の役割

斉藤邦行（岡山大学農学部総合農業科学科教授）

（休憩 15:05～15:15）

## III. パネルディスカッション（15:15～16:55）

座長：西脇亜也（宮崎大学農学部森林緑地環境科学科教授）

## 1) 大学農場に期待する大学発ブランド農産物

高橋菜里（NPO 法人プロジェクト 88 代表）

## 2) 大学ブランド開発を通じた地域連携の効果と課題

三石誠司（宮城大学食産業学部フードビジネス学科教授、附属農場長）

## 3) 教育関係共同利用拠点活動による地域との連携

北島 宣（京都大学大学院農学研究科教授、附属農場主事）

## 4) 地域農家と連携した震災からの農業復興活動

阿部 淳（東海大学農学部応用植物科学科教授、附属センター長）

IV. 総括および閉会挨拶（16:55）

嶋田 透（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催委員会等委員）

公開ワークショップ「Future Earth と学校教育：  
Co-design/Co-production をどう実践するか（Ⅱ）」の開催について

1. 主催：日本学術会議フューチャー・アースの推進に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
2. 共催：なし
3. 後援：なし
4. 日時：平成 29 年 5 月 15 日（月）14:00～17:00
5. 場所：日本学術会議大会議室（2階）
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：Future Earth では、科学と社会の協働による Co-design、Co-production の推進が強く求められている。なかでも科学と学校教育との協働の推進は、未来を担う若者の育成・成長に直結する喫緊の課題である。当分科会はそれについて中学・高校生や大学生を含む広範な人々と共に議論するための学術フォーラムを平成 29 年 9 月初旬に開催することを目指しており、それを文字通り「科学と社会の協働」により企画(Co-design)する方針である。本ワークショップはその一環として、平成 29 年 1 月 23 日に開催した同名のワークショップに引き続いて開催するものであり、分科会委員と学校の教員・生徒の報告を基に、参加者全員で、当該フォーラムの形態、扱うべきテーマと扱い方、科学と学校教育とのつながりの強化およびそれと関連する問題などについて考える。前回のワークショップの成果を踏まえつつ、高校生からの提案とディスカッションの一層の充実を図る。
8. 次第：（予定、交渉中のものも含む）  
 総合司会：宮寺晃夫（日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授）  
 14:00～14:05 開会挨拶、趣旨説明  
 氷見山幸夫（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授）  
 14:05～14:20 報告 1  
 毛利 衛（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人科学技術振興機構日本科学未来館館長）  
 14:20～14:35 報告 2  
 武内 和彦（東京大学サステナビリティ学連携研究機構機構長・教授）  
 14:35～14:50 報告 3  
 井上 貴司（山陽女子中学校・高等学校教諭）  
 14:50～15:05 報告 4  
 木村 浩明（逗子開成中学校・高等学校教諭）  
 15:05～15:20 報告 5  
 小澤 栄美（東京都立科学技術高等学校教諭）（調整中）  
 15:20～15:30 休憩

15:30～16:55 ディスカッション

司会：山口しのぶ（日本学術会議連携会員、東京工業大学学術国際情報センター教授）

16:55～17:00 閉会挨拶

花木啓祐（日本学術会議副会長・第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「第2回若手科学者サミット」の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー若手科学者ネットワーク分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成29年6月2日（金）13：30～18：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

昨年度に若手科学者ネットワーク分科会の呼びかけ開催したポスターセッション「若手科学者サミット」を内容的に拡充し、若手科学者同士での交流と情報共有を提供するために開催する。今年度は3部構成として、研究交流、若手の会の活動の紹介、若手の研究環境に関するパネルディスカッションの開催を予定している。

第1部の研究交流として、若手科学者ネットワークに登録している若手の会の推薦により、優れた研究成果を挙げている若手科学者数名による講演を行う。若手科学者同士のネットワークがより強固なものに発展するとともに、とりわけ、異なる研究分野の手法やアプローチの融合による新たな研究領域の創造へとつながることが期待される。

第2部では、若手科学者ネットワークに登録している若手の会の活動を紹介するポスターセッションを開催する。若手科学者の交流に関するアイデアを交換する。この部分については、若手アカデミー委員会の頃から継続的に開催してきており、毎年参加者より好評を得ている。

第3部では、外部からの講師を招聘したシンポジウムである。このシンポジウムでは、若手科学者の置かれている状況と研究費のあり方を若手自身が討論する場を提供するために、登壇者を交えたパネルディスカッションを行う。若手アカデミーでは、若手研究者問題に取り組むため、若手科学者ネットワーク分科会を設置し、当分科会において、分野を越えた日本初の大規模若手研究者のネットワーク「若手科学者ネットワーク」を構築した。今回は若手科学者ネットワークを通して参加者を募り、より大局的に若手科学者と研究費という具体的な課題に対する一般討論を行う。

8. 次 第：

13：30 開会の辞

宇南山 卓（日本学術会議連携会員、一橋大学経済研究所准教授）

13：40 若手研究者による研究報告①（学会若手賞受賞者より選出）（調整中）

14：00 若手研究者による研究報告②（同上）

14：20 若手研究者による研究報告③（同上）

14：40 （休憩）

- 15 : 00 ポスターセッション：若手の会の活動報告  
司会：岩崎 渉（日本学術会連携会員、東京大学大学院理学系研究科准教授）  
ポスターセッションでの発表者：10 団体程度の参加（調整中）
- 16 : 00 （休憩）
- 16 : 15 パネルディスカッション  
司会：若手アカデミーメンバー（調整中）  
パネリスト：文部科学省等の官庁より課長補佐級の中堅職員 2、3 名（調整中）  
若手アカデミーメンバー、その他若手科学者 1、2 名（調整中）
- 17 : 30 質疑応答
- 18 : 00 閉会

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案 2 1 は後援のため、資料 5 本紙を御参照ください。